

# がんの教室

田中 伸哉

⑬

がんの治療法は一般的に、進行の度合いによって外科手術、化学療法、放射線治療がある。これら三つは、単独または組み合わせて行われる。このうち外科手術は、直接がんを取り除くものだ。がんはリンパの流れに乗って周りのリンパ節に転移している可能性がある

## 腹腔鏡手術とは

近年登場した腹腔鏡手術は、1センチほどの小さな穴をおなかに数カ所開け、細長いチューブのようなかメラや器具を数本通し、モニターの画面に映し出されるおなかの中を見ながら行う。傷口が

ので、近くのリンパ節も取る。患部を切り取る外科手術の歴史は古く、南米ペルーの遺跡から、手術痕のある頭蓋骨が見つかった。

## 少ない体の負担 退院も早く

小さいので、患者の負担が少なく、手術後も早く退院できる利点がある。がんの治療でも、腹腔鏡手術は広く行われるようになってきた。だが、腹腔

鏡手術がすべてのがんの手術に適しているわけではない。例えば5センチくらい大きな胃がんが隣の大腸とくっつくほど進行している時は、十分な視

野がとれない腹腔鏡手術では難しい。むしろ昔ながらにおなかを広く開いて摘出する方がいい場合もある。

また、開ける穴の数は通常5、6カ所だが、患者の負担を減らすなどの狙いから1、2カ所にするケースもある。だがこれも、体の負担は減っても、難易度が上がって出血の危険性が増すなどのリスクがある。

患者にはなかなか難しい問題なのだが、医師に腹腔鏡手術を勧められた際は、長所と短所についてよく説明を聞いて判断するようにしてほしい。

(北大医学部腫瘍病理学教授)

